

令和元年6月4日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K03009

研究課題名（和文）オーストリアにおける地域計画と中小都市の存立構造に関する地理学的研究

研究課題名（英文）Geographical research on the subsistence structure of small and medium sized cities in Austria

研究代表者

川田 力（KAWADA, Tsutomu）

岡山大学・教育学研究科・教授

研究者番号：30263643

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：オーストリアは地方分権的国家体制を取っていることもあり、各中小都市は地理的位置や、当該都市および周辺地域が有する産業基盤および経済状況を活かした特色ある持続可能な都市マネジメント戦略を立案し実行している。オーストリアの中小都市の発展においては、流入する外国人居住者への対応を含む社会的持続可能性への対応と環境的持続可能性への対応が重要となっている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで日本においてほとんど調査・紹介されてこなかった、オーストリア中小都市の現状を、都市間競争の進展、中小都市の変容、都市マネジメント戦略の重要性の拡大の3者間の関連を踏まえて明らかにしたという意義がある。

とくに、都市間競争への対応と都市の持続可能性への対応という2つの政策課題の調整状況と、都市マネジメント関係者の協働的相互関係に基づく都市マネジメントの現状を把握し、中小都市の存立構造に関わる地域的要因を解明したことによる学術的貢献が大きいといえる。

研究成果の概要（英文）：Small and medium sized cities in Austria are taking distinctive sustainable urban management strategies according to their geographical location and industrial structure. For the development of those cities, it is important to consider environmental sustainability and social sustainability, with the increasing number of foreign residents.

研究分野：人文地理学

キーワード：オーストリア 都市 地理学

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景として、次の3点から、本研究でオーストリアの中小都市の存立構造を分析することは、今後の日本における新たな地域統合・地域再編および中小都市整備事業について展望する上でも極めて有意義であると考えた。オーストリアではグローバルな都市間競争を念頭において地域計画が策定されている中で、各都市が多様な都市マネジメント戦略を取っていること。これは、連邦制にもとづく地方分権の行政組織を有し市町村の主体性が確立しているオーストリアの特性と考えられる。オーストリアでは1995年のEU加盟、2004年のEUの東方拡大という地域再編・地域統合の影響を強く受けたにも関わらず、中小都市の大半が持続的に発展していること。オーストリアでは都市の人口属性や経済状況に関する詳細な統計データが全国的に整備されており、地域分析に重要なデータの入手・利用が可能であること。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、オーストリアの中小都市を事例として、近年のグローバルな都市間競争を念頭にしたオーストリアの地域計画において、広域連携に基づく地域再編プログラムが実施される中で、中小都市がいかに持続的に発展しているのかを、各都市の都市マネジメント戦略と関係づけて検討することにある。具体的には、地域計画の中での各都市の位置づけ、各都市の政治・経済的状況の差異、都市内部における社会空間構造の地域的差異、および、都市マネジメント関係者の意識と対応の差異が中小都市の持続発展プロセスに与える影響を解明しようとするものである。

## 3. 研究の方法

### (1) オーストリアにおける地域計画・都市マネジメント等に関する文献・資料研究

日本国内で入手可能なオーストリアの地域計画に関する文献・資料を国立国会図書館にて収集する。また、日本国内で入手することが困難な文献およびオーストリアの空間整備計画・地域計画・都市経済・都市計画の状況についての文献・資料を、オーストリア空間整備計画協議会資料室、オーストリア科学アカデミー都市・地域研究所、ウィーン大学図書館、グラーツ大学図書館で収集する。以上をもとに既存文献および資料の基礎的データベースを作成する。

### (2) 統計資料によるオーストリアの中小都市の都市特性分析と事例調査都市の決定

オーストリアの中小都市の都市特性に関する統計データをオーストリア連邦統計局で入手し、オーストリアの中小都市の都市特性を分析する。この分析結果と既存文献および資料のデータベースを吟味するとともに、候補都市を巡回し、調査協力の獲得可能性を確認し、事例調査都市を決定する。

### (3) 事例調査都市における現地調査

海外研究協力者の助言も得つつ、事例調査都市における現地調査実施プログラムを検討・策定する。事例調査都市においては、当該都市の社会経済的状況、都市計画、国際的な都市間の競争・持続的な発展への対応、地方行政組織の構造と保有権限、都市の政治的状況、住民組織・住民活動の状況などについて、行政担当者、住民組織代表者、都市マネジメント関係者等を対象に聞き取り調査を実施する。

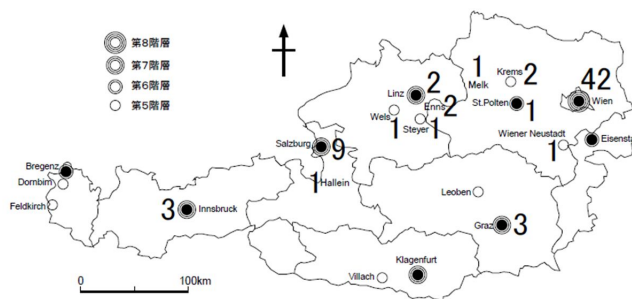
## 4. 研究成果

### (1) 主な研究成果

わが国におけるオーストリア都市研究の動向

わが国におけるオーストリアの都市研究について、国立国会図書館の雑誌記事索引、および、国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii に基づきデータベースを作成した。

その結果、わが国におけるオーストリアの都市研究の70%が首都ウィーン市に関する研究で、それに次ぐのがザルツブルク市に関する研究で約15%である。その他の都市に関する研究は1~3件に留まっている。オーストリアの中小都市の都市マネジメントに関係する研究は、グラーツ市の自動車産業、インスブルック市の交通管理計画に関する研究のほかは、いくつかの都市の自然エネルギー利用に関する報告が散見されるのみであることが判明した。

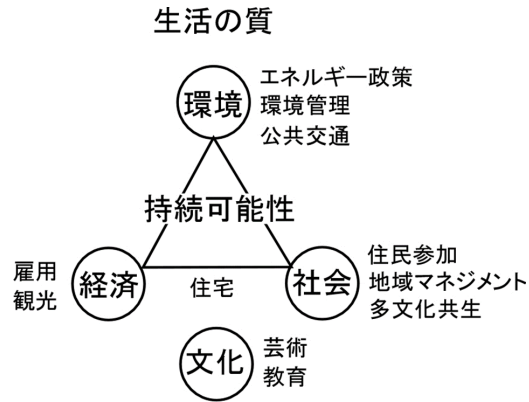


オーストリア都市研究対象都市（数字は論文数）

事例調査都市での研究成果

( グラーツ市 )

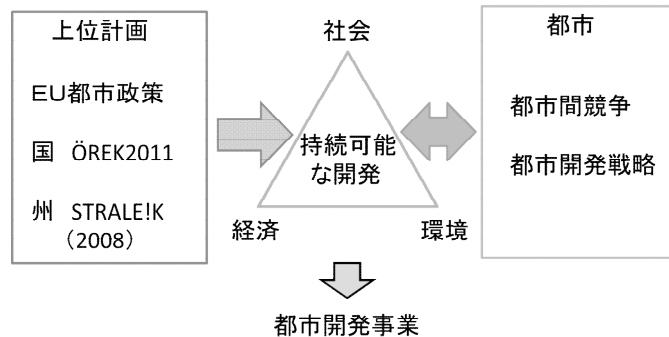
グラーツ市では、1995年のオーストリアのEU加盟直後の1996年からEUの地域政策の中心的理念である持続可能な開発、すなわち、環境、経済、社会の持続可能性を十分に配慮した計画の策定とその実施を明確に打ち出し、EU基金に基づく統合的都市開発プロジェクトを積極的に獲得している。また、2003年の欧州文化首都プロジェクトの対象都市に選定されたことを契機に建設された現代美術館およびムーア川の人工島を象徴的に利用するなどして文化都市イメージの定着を図っている。グラーツ市では、今後も人口増加と経済成長が継続すると予測しており、遊休地の開発および土地利用の高度化により、産業系および住居系の土地利用需要に対応することを計画しているが、持続可能な開発と文化都市イメージから構成される生活の質をより高める都市を計画目標に掲げることで、住民や多くのステークホルダーの合意を形成し、都市間競争に臨んでいる。



グラーツ市における都市マネジメント

( クラーゲンフルト市 )

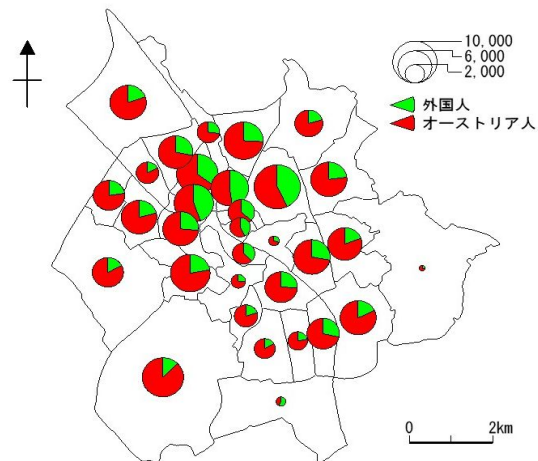
クラーゲンフルト市は、最近10年間で約4%の人口増加を示し、今後10年間にも約3%の人口増が予測されている。しかし、人口増の約3分の2が外国人の流入によるもので、高齢化の進展も見込まれている。クラーゲンフルト市内の地区別の人口動態には地域的差異がみられ、都心部では最近10年間で5%を超える人口減がみられた一方、郊外部では人口増が顕著にみられる。クラーゲンフルト市は持続可能な都市開発として、都心隣接地区での再開発計画を有しており、この計画は、中心性の強化、近距離移動、エネルギー効率、省資源を目途としている。こうした、行政側が掲げる持続可能な都市開発の実現には、行政側がその必要条件と考えている国際的都市間競争力の強化とそれを支える住民の生活の質の向上に関する市民意識の動向が鍵を握る。



クラーゲンフルト市における都市マネジメント

( ザルツブルク市 )

ザルツブルク市は持続可能な都市開発として、国際的レベルでの都市の地位をより向上させること、および、中心地機能の維持・強化を最重要課題として掲げている。とくに、多様な住民のニーズに応じた良質な住宅供給が中心地機能の維持・強化の基盤となると考えている。こうしたことから、ザルツブルク市は都心周辺地区での良好な住宅供給を目途とした再開発事業を実施しているが、事業実施における住民参加や事業後の住民交流の場の提供など社会的持続可能性に配慮した事業が行われるとともに、省エネルギー住宅の建設や、公共交通利用の利便性を高め自動車利用を抑制するなど事業毎に特色のある環境的持続可能性への配慮がなされている。



ザルツブルク市における地区別人口 (2017)

資料：ザルツブルク市統計報告

( 調査結果の総括 )

オーストリアは地方分権的国家体制を取っていることもあり、各都市は地理的位置や、当該都市および周辺地域が有する産業基盤および経済状況を活かした特色ある持続可能な都市マネジメント戦略を立案し実行している。オーストリアの中小都市の発展においては、流入する外

国人居住者への対応を含む社会的持続可能性への対応と環境的持続可能性への対応が重要となっている。

## (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究は、これまで日本においてほとんど調査・紹介されてこなかった、オーストリア中小都市の現状を、都市間競争の進展、中小都市の変容、都市マネジメント戦略の重要性の拡大の3者間の関連を踏まえて明らかにしたという意義がある。

とくに、都市間競争への対応と都市の持続可能性への対応という2つの政策課題の調整状況と、都市マネジメント関係者の協働的相互関係に基づく都市マネジメントの現状を把握し、中小都市の存立構造に関わる地域的要因を解明したことによる学術的貢献が大きいといえる。

## (3) 今後の展望

本研究の成果は、日本における今後の地域統合・地域再編および中小都市整備事業の立案に資するものと考えられる。しかしながら、中小都市における都市マネジメントにおいては、都市を取り巻く政治・経済的状況が多様な空間的スケールで重層的に働いていることを考慮することが不可欠である。また、都市マネジメント関係者の多様な役割、組織編制や権限構造の差異のみならず、各ステークホルダーにおける地域的差異や地域的公正に対する理解が新たな地域再編プロセスと中小都市の存立に直接的な影響を与えている可能性がある。よって、本研究をさらに発展させ、それらについて地理学的な知見をさらに蓄積することが目指される。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計5件)

川田 力、ザルツブルク市における持続可能な都市開発、日本都市学会第65回大会、2018年

川田 力、オーストリア・クラゲンフルト市における持続可能な都市開発、2018年度中四国都市学会大会、2018年

川田 力、持続可能な都市マネジメント、2017年度中四国都市学会大会、2017年

川田 力、グラーツ市における持続可能な都市開発戦略、2017年日本地理学会春季学術大会、2017年

川田 力、わが国におけるオーストリア都市研究の動向、2015年度日本地理教育学会、2015年

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

<https://edu.okayama-u.ac.jp/~syakai/socrc.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

なし

### (2) 研究協力者(海外)

研究協力者氏名：フリードリッヒ・M・ツィンマーマン

ローマ字氏名：Friedrich M. Zimmermann

所属研究機関：グラーツ大学・環境地域教育学部

職名：教授

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。